



たちばな

川崎市立橘高等学校同窓会
会報「たちばな」第11号
〒211-0012
川崎市中原区中丸子562
TEL 044-411-2640
<http://homepage2.nifty.com/tachibana-dsk>



市合同芸術祭での演奏（吹奏楽部）

躍動するたちばな

橋高等学校
校長 五島 三津雄



全体の活性化に大きく貢献してくれました。現在は生徒の部活動入部率は85%をこえるに至り、学びの場の輪が拡大しています。ある人が「健全な教育とは、頭の中を事実として今日あります。その先導的な役割を果たしてくださったバレー・ボーラー部、剣道部、吹奏楽部が学校事実と理論を如何に役立てられるかである」と述べて、ツ・文化活動を発信し友活動は、頭に描いた理屈や理論を瞬時に体現することができます。生徒が誇りと自信を持って自己実現を果たし、学び終えた卒業生と願っています。私の教育観は『嚴教慈育』と

道の橋高校は「文武両道」をめざして、創造をめざすことを卒業することではなく、理論でいっぽんにして学校を卒業することではない。事実や理論はそれ自体ほとんど役に立たない。本当に大切なのは、その体ほどんど役に立たない。くれたバレー・ボーラー部、剣道部、吹奏楽部が学校事実と理論を如何に役立てられるか、夢を育てる人間教育に意欲と情熱を注いでくれる学び舎の創造、人が人を教育するうえで、「敦惠」（情に厚みにし、地域のひとがく、人の和を重んじるの有形無形の応援がいたただ意を心に刻んでおきた



橋高等学校
同窓会長 長谷川 幸夫

若い世代の参加を！

員の半数は女子が占める成で、在校生の活躍ぶり

ようになります。女子を是非みにきてください。

会員の方々の、本会への

積極的な協力をお願いし

て戴きたいと思います。

さて、母校「橋」は、任の会長として私、長谷

川が承認され、新役員

に就任いたしました。この一

注目される学校になり、事務局員とともにこの一

進学率も年々向上しつつあります。今年度から市

立五校のモデル校として、方々のご支援を戴き、よ

く感謝申し上げます。

同窓会の皆さまには、二健勝でお過ごしのこ

と存じます。会員も本年度の新会員を迎えて一万九千余名の

力を強め、支援の賜ものと深く感謝申し上げます。

同窓会は、本年、設立五十二年となりました。

近年、母校、橋は女生徒の入学が多く、同窓会

橋高校の未来にむけて

てるかである」と述べて、ツ・文化活動を発信し友好的な交流を通して地域

活動は、頭に描いた理屈や理論を瞬時に体現

することができます。生徒会、クラブの方々の積極的参加をお

いています。生徒会、クラブの方々の積極的参加をお

いています。生徒会、クラブの方々の積極的参加をお

別表 1
公立高校（全日制普通科）の
入学希望上位10校

順位	校名	希望人数（人）
1	横浜平沼	659
2	市ヶ尾	608
3	横浜市立戸塚	557
4	横浜翠嵐	524
5	川崎市立橘	510
6	湘南台	496
7	秦野	489
8	横浜市立桜丘	488
9	大原	478
10	川和	470

※弥栄東・西（819人）は2校合計のため除外。

櫻はいま

橘高校は、学校創立六十周年（平成14年）に、新校舎落成と学科改編を実施し、新生橘高校がスタートしました。

学科改編は、平成13年4月から、従来の普通科7学級体制から、普通科（5学級・17年度から4学級）、国際科（1学級）、スポーツ科（1学級）の体制でスタートし、16年3月には、新生橘高校の一期生が巣立つて行きま

定時制は、4年間で学ぶ勤労青少年の学校として運営されてきたが、平成元年に学校教育法が改正され、修業年限が3年以上となった。

現在も大きな問題となっている、不登校の生徒、高校中途退学者、あるいは生涯学習としての入学、これらに対応するため、橘高校では平成6年度から神奈川県内唯一の3年制課程が併設された。ま

生徒の雪が部活動に目覚ましい活躍をわれている。

部活動への入部は他校平均で50～60%であるが、橘高校の場合は80%を超す高い入部率である。男女バレーボール部は目覚ましい活躍であり、春高バレーの常連校である。

別表2 前期選抜合格			
	定員	志願者数	面接者数
全日制 普通科	78	284	283
同			

る。で、全 日	同 国際科	1 9	4 6	4 6
が発表された。別表1の とおり全日制普通科では 希望調査を実施した結果	同 スポーツ科	1 9	4 6	4 6
	定時制 3年制課程	1 7	1 8	1 8
	同 4年制課程	1 7	1 6	1 6

**普通科・国際科・スポーツ科の3学科
部活動の飛躍、新校舎で競争率倍増**

数	競争率
3	3. 6 3
9	2. 4 2
9	2. 4 2
7	1. 0 6
7	1. 0 0

別表2 前期選抜合格状況

	定員	志願者数	面接者数	合格者数	競争率
全日制 普通科	7 8	2 8 4	2 8 3	7 8	3. 6 3
同 国際科	1 9	4 6	4 6	1 9	2. 4 2
同 スポーツ科	1 9	4 6	4 6	1 9	2. 4 2
定時制 3年制課程	1 7	1 8	1 8	1 7	1. 0 6
同 4年制課程	1 7	1 6	1 6	1 7	1. 0 0

別表3 後期選抜合格状況

	定員	志願者数	志願 変更後	合格者数	競争率
全日制 普通科	7 9	1 7 3	1 3 3	7 9	1. 6 8
同 国際科	2 0	2 2	2 8	2 0	1. 4 0
同 スポーツ科	2 0	2 1	2 2	2 0	1. 4 0
定時制 3年制課程	1 8	1 1	1 4	1 4	0. 7 8
同 4年制課程	1 9	3	6	6	0. 3 2

後期は、別表3のとおりで、当初の志願者は一七三人で二・一九倍であり志願変更で30人が変更し一三三人で一・六八倍となつた。また、志願変更で国際科、スポーツ科とも志願者が増え、競争率も高くなつた。

定時制の3年課程前期では定員を超えており、後期でも定員に4人満たない状況でかなり志願者がいた。

なぜ、このように橘への志望者が多いのか、そ

の要因を考えてみると、国内でも有数の設備を誇る校舎、国際科、スポーツ科への魅力、部活動の全国レベルでの活躍と部活動入部者の意欲、進路に対する評価はこれから大いに期待でき、校長先生はじめ教職員の皆様の熱意と努力の賜物ではないでしょうか。橘高校の将来は希望に満ち溢れている楽しみな母校である。

(11期 鈴木正則)

学 科 紹 介



情報処理室での授業（普通科）

橘高校は、平成13年4月の新一年生から、従来の普通科に加え県内初年の専門学科として国際科とスポーツ科を新設、先進的な役割を担いながら三科体制がスタートしています。

個別に応じた幅広い教科選択

普通科では共通科目の履修を中心に2年次3年次では選択授業の単位を多くして、進路希望に応じた教科選択を進めています。教科によっては学習クラスを分析し、少人数授業も特徴のひとつです。最新情報機器備え

たし教室、情報処理室など施設も充実し幅広い学習を進めています。

国際社会に育てる人間を育てるためには、国際社会に寄与する人を育てるため外国人講師による少人数クラスの編成や必修科目に第一外国語を設けています。専門科目のほとんどが少人数に分割した授業です。また、外国人講師が教える授業も数多く用意されています。普通科と異なり英語の授業時間数が豊富で内容も非常に充実しています。世界で通用する英語を武器に様々な分野で活躍できるよう、卒業までに全員英検2級以上の英語力をつけるため授業時間が豊富です。またプレゼンテーション演習やスピーチコンテストを通じ

てパブリックスピーチング能力を高めています。

さらに、北米留学の際に必要とされるTOEFLやTOEICの対策を行なうことで世界に通じる「英語力」を育てていきます。カリキュラムも特色のあるもので1年生では国内語学研修として集中キャンプによる英語演習授業を行い英語力の向上を目指します。2年次では約2週間のオーストラリア海外研修による現地高校での現地校生徒との交流を行ないます。帰

り日本では、1年次、2年次に国際武道大学においてメディアカルチエックを実施、日本赤十字社による救急法救急員資格取得講習会実施し、救急員の資格取得、希望者によるスポーツ各競技における審判の資格取得、各種クラブ活動に積極的に参加し、専門競技の知識を深め競技力の向上を目指しています。また、

2年次に八ヶ岳のキャンプ実習、3年次ではゴルフのテニスコート、百メートルのターフンコース、及びターフン走路付きの幅跳び用砂場などが設置されたグラウンドがあります。ソフトとハード両面に充実した体制をしています。

◆国際科◆

国際科では国際社会に寄与する人を育てるため外国人講師による少人数クラスの編成や必修科目に第一外国語を設けています。専門科目のほとんどが少人数に分割した授業です。また、外国人講師が教える授業も数多く用意されています。普通科と異なり英語の授業時間数が豊富で内容も非常に充実しています。世界で通用する英語を武器に様々な分野で活躍できるよう、卒業までに全員英検2級以上の英語力をつけるため授業時間が豊富です。またプレゼンテーション演習やスピーチコンテストを通じ

てパブリックスピーチング能力を高めています。

さらに、北米留学の際に必要とされるTOEFLやTOEICの対策を行なうことで世界に通じる「英語力」を育てていきます。カリキュラムも特色のあるもので1年生では国内語学研修として集中キャンプによる英語演習授業を行い英語力の向上を目指します。2年次では約2週間のオーストラリア海外研修による現地高校での現地校生徒との交流を行ないます。帰

り日本では、1年次、2年次に国際武道大学においてメディアカルチエックを実施、日本赤十字社による救急法救急員資格取得講習会実施し、救急員の資格取得、希望者によるスポーツ各競技における審判の資格取得、各種クラブ活動に積極的に参加し、専門競技の知識を深め競技力の向上を目指しています。また、

2年次に八ヶ岳のキャンプ実習、3年次ではゴルフのテニスコート、百メートルのターフンコース、及びターフン走路付きの幅跳び用砂場などが設置されたグラウンドがあります。ソフトとハード両面に充実した体制をしています。

国際科では国際社会に寄与する人を育てるため外国人講師による少人数クラスの編成や必修科目に第一外国語を設けています。専門科目のほとんどが少人数に分割した授業です。また、外国人講師が教える授業も数多く用意されています。普通科と異なり英語の授業時間数が豊富で内容も非常に充実しています。世界で通用する英語を武器に様々な分野で活躍できるよう、卒業までに全員英検2級以上の英語力をつけるため授業時間が豊富です。またプレゼンテーション演習やスピーチコンテストを通じ

てパブリックスピーチング能力を高めています。

さらに、北米留学の際に必要とされるTOEFLやTOEICの対策を行なうことで世界に通じる「英語力」を育てていきます。カリキュラムも特色のあるもので1年生では国内語学研修として集中キャンプによる英語演習授業を行い英語力の向上を目指します。2年次では約2週間のオーストラリア海外研修による現地高校での現地校生徒との交流を行ないます。帰

り日本では、1年次、2年次に国際武道大学においてメディアカルチエックを実施、日本赤十字社による救急法救急員資格取得講習会実施し、救急員の資格取得、希望者によるスポーツ各競技における審判の資格取得、各種クラブ活動に積極的に参加し、専門競技の知識を深め競技力の向上を目指しています。また、

2年次に八ヶ岳のキャンプ実習、3年次にスキーパーク実習、2年次にスキー



メディカルチェック（スポーツ科）

オーストラリア海外研修（国際科）



オーストラリア海外研修（国際科）でゆきながら異文化理解の授業を行なっています。メリカ・チリなどの公立のハイスクールに4名が留学、卒業し更に、海外の大学・短大へ進んでいます。国際科は各学年1クラス（39名）ずつ、計3クラスからなっておりますが、平成16年3月1日CC（国際交流クラブ）活動としてカンボジアの恵まれない子供たちを支援する活動に取り組んでいます。1クラス1人の子供を後押し、支援金や文通を通して子供の生活

躍を目指すこと。また、地域社会で体育スポーツのリーダー育成を目標にしています。主なカリキュラムとしては、1年次、2年次に国際武道大学においてメディアカルチエックを実施、日本赤十字社による救急法救急員資格取得講習会実施し、救急員の資格取得、希望者によるスポーツ各競技における審判の資格取得、各種クラブ活動に積極的に参加し、専門競技の知識を深め競技力の向上を目指しています。また、

2年次に八ヶ岳のキャンプ実習、3年次ではゴルフのテニスコート、百メートルのターフンコース、及びターフン走路付きの幅跳び用砂場などが設置されたグラウンドがあります。ソフトとハード両面に充実しており、全天候型ラムとしては、1年次、2年次に国際武道大学においてメディアカルチエックを実施、日本赤十字社による救急法救急員資格取得講習会実施し、救急員の資格取得、希望者によるスポーツ各競技における審判の資格取得、各種クラブ活動に積極的に参加し、専門競技の知識を深め競技力の向上を目指しています。また、

2年次に八ヶ岳のキャンプ実習、3年次ではゴルフのテニスコート、百メートルのターフンコース、及びターフン走路付きの幅跳び用砂場などが設置されたグラウンドがあります。ソフトとハード両面に充実しており、全天候型ラムとしては、1年次、2年次に国際武道大学においてメディアカルチエックを実施、日本赤十字社による救急法救急員資格取得講習会実施し、救急員の資格取得、希望者によるスポーツ各競技における審判の資格取得、各種クラブ活動に積極的に参加し、専門競技の知識を深め競技力の向上を目指しています。また、



定時制(3年制)授業風景

[学科]
橋高の定時制は、昭和23年創立という歴史と伝統ある学科です。卒業生はすでに三〇九一名以上にのぼり、各分野で活躍しています。

1年及び2年に基礎漢字・基礎計算の授業をおき、基礎学力を培う授業を行なっています。3年生課程では1日の授業時間は6時間(1.2)

4年制課程では、1日の授業時間は4時間です。ゆとりある時間割でじっくり進めています。始まりは5時25分、終わりは8時50分ですので、一般正規に就職している人でも通学可能です。

関東大会出場の際も雨…
インターハイでは台風の中…
暑い夏だったが大会だけは雨の中とは天候に…

水泳

春季大会
2回戦 ● 対七里ヶ浜
3回戦 ● 対桐蔭学園
3勝 (3-910-0)

地区
県
● 対百合丘
1勝 (0-2)

夏の選手権
16年度主な実績
△1回戦 橘 12-5 大磯
△2回戦 橘 7回コールド
1-10 相洋

△1回戦 橘 12-5 大磯
△2回戦 橘 7回コールド
1-10 相洋

△1回戦 橘 12-5 大磯
△2回戦 橘 7回コールド
1-10 相洋

△1回戦 橘 12-5 大磯
△2回戦 橘 7回コールド
1-10 相洋

△1回戦 橘 12-5 大磯
△2回戦 橘 7回コールド
1-10 相洋

△1回戦 橘 12-5 大磯
△2回戦 橘 7回コールド
1-10 相洋

△1回戦 橘 12-5 大磯
△2回戦 橘 7回コールド
1-10 相洋

左右されずベスト近いタ
イムとは、外プールでの
練習のお陰です。

野球



バトミントン

ソフトテニス

卓球

△春季関東大会
市高校選手権
女子シングルス第2位
女子ダブルス第2位
香藤・曾我部組

文化部

書道

吹奏楽

演劇

映画研究

RC、軽音楽

ICCA

漫画研究

J

表、作品作成、練習など

の活動をしている。

(18期 牧野重夫)

の活動をしている。

##

平成15年(2003年)
新調された「校旗」

月に現在地の中丸子に新設立され、同年4月8日が挙行された。その後、昭和21年3月、溝の口の旧日本光学青年学校に移転。昭和26年10月に現在地の中丸子に新校舎設立を決定し、昭和27年4月完成した。

10日、旧制橘中学として大戸小学校校舎で入学式が挙行された。

創立記念日

本校は、昭和17年3月定着したと考えられる。

「校旗・校歌・応援歌」の誕生うど

二〇〇四年橘花祭 同窓会コーナーから

応援歌

作詞・難波一尚
作曲・山口義郎



校旗・校歌の誕生

創立10周年記念事業として、昭和26年に誕生しました。①校歌は全生徒より歌詞の募集が行なわれたが、適當なものがなく、改めて山口先生が構想を練り

現在の歌詞が完成、曲は当時の教育委員会主事の村井先生にお願いした。②校旗は当時の吉野副校長先生と広田先生により図案ができ製作した。

広田幸昇先生の話(抜粋)
「橘高校が将来大きく羽ばたき、崇高な理想を生徒諸君にもつてもらう」とを念頭に下絵を十四、五枚制作し、当時の吉野副校长と構想を練った。現在の校旗は平成15年に新調された。

※「六百」の部分はその時点での在校生徒数が入る。

多くの、各方面からも高い評価を得ていた。同時に、文化部、運動部の活動も盛んで、印象に残る



二〇〇四年 同窓会コーナー

この年故山口義郎先生から応援歌とは違う情感の

音楽部の合唱が全館に流れれるなかで、山口先生と熱い握手を交わした事は今は懐かしく思い出されます。

「私が昭和31年正式に教諭として橘に迎えられ、

山口義郎先生とも相談し、

「この年故山口義郎先生から応援歌とは違う情感の

鳴物の「和太鼓」も地元の素封家の協力で借用で

きた。その後応援団旗等

整備され、リーダー委員

会は活躍し、選手と全校生徒の士気を大いに高め

てくれました。」

青春讃歌

作詞・小林昌雄

作曲・山口義郎

青春讃歌

青春讃歌誕生の由来

小林昌雄先生著稿(抜粋)

「私が昭和31年正式に教

諭として橘に迎えられ、

この年故山口義郎先生か

ら応援歌とは違う情感の

ある、趣の深い曲を生徒

のため二人で作つてみた

いかと話があり、そうし

て書いたのが「青春讃歌」

でした。

金校に紹介されたのは、

体育館をもなかつた、

学校を離れて開催された

後輩で当時法政大学の応

援団長難波浩君他数名の

リーダーに指導を受けて、

恰好をつけることができ

た。応援団活動を重ねる

うちに校歌だけでなく、

選手の士気を高めるため、

ご覧ください。

中原公民館の文化祭の時

山口義郎先生とも相談し、

でした。

音楽部の合唱が全館に流れれるなかで、山口先生と熱い握手を交わした事は今は懐かしく思い出されます。

青春讃歌誕生の由来

小林昌雄先生著稿(抜粋)

「私が昭和31年正式に教

諭として橘に迎えられ、

この年故山口義郎先生か

ら応援歌とは違う情感の

ある、趣の深い曲を生徒

のため二人で作つてみた

いかと話があり、そうし

て書いたのが「青春讃歌」

でした。

金校に紹介されたのは、

体育館をもなかつた、

学校を離れて開催された

後輩で当時法政大学の応

援団長難波浩君他数名の

リーダーに指導を受けて、

恰好をつけることができ

た。応援団活動を重ねる

うちに校歌だけでなく、

選手の士気を高めるため、

ご覧ください。

今年の橘花祭は
10月2日(日)に

橋高校で開催されます。

皆さんぜひお誘いあわせの上

ご覧ください。

今年の橘花祭は
10月2日(日)に

橋高校で開催されます。

皆さんぜひお誘いあわせの上

ご覧ください。



審議する代議員の皆さん（写真上）



報告・提案する役員（写真右）

平成17年度代議員会報告
事業計画、予算案承認される

度催
度が長
開さ
催ん
年さを
れおし
た招て
。き学
議報長
議し校さ
員長れ並
杉会約は承
び原が60
じ認に久
名めさ平
三月参先
れ成氏18
加生た17
の方。年19
も、引度
期土と歴
き事和代
続業を、
や学き計
選橋か校場
画出高な
長所（を案
霧囲P N
平お氣T E
・成いでAC
予16で懇
正玉算年
開

平成17年度代議員会報告

事業計画、予算案承認される

平成16年度事業報告

卒業式（3／2）へ参列

2、PTA総会への出席

1、入学式（4／7）

3、役員会の開催

4、事務局会議の開催

5、代議員会及び懇親会の開催

6、会報発行への準備

7、母校への後援

8、橘花祭への参加

9、卒業式への参列

10、入学式への参列

11、卒業式（3／2）への参列

12、PTA総会への出席

13、代議員会の開催

14、事務局会議の開催

15、代議員会及び懇親会の開催

16、会報発行への準備

17、母校への後援

18、橘花祭への参加

19、卒業式への参列

20、入学式への参列

21、卒業式（3／2）への参列

22、PTA総会への出席

23、代議員会の開催

24、事務局会議の開催

25、代議員会及び懇親会の開催

26、会報発行への準備

27、母校への後援

28、橘花祭への参加

29、卒業式への参列

30、入学式への参列

31、卒業式（3／2）への参列

32、PTA総会への出席

33、代議員会の開催

34、事務局会議の開催

35、代議員会及び懇親会の開催

36、会報発行への準備

37、母校への後援

38、橘花祭への参加

39、卒業式への参列

40、入学式への参列

41、卒業式（3／2）への参列

42、PTA総会への出席

43、代議員会の開催

44、事務局会議の開催

45、代議員会及び懇親会の開催

46、会報発行への準備

47、母校への後援

48、橘花祭への参加

49、卒業式への参列

50、入学式への参列

51、卒業式（3／2）への参列

52、PTA総会への出席

53、代議員会の開催

54、事務局会議の開催

55、代議員会及び懇親会の開催

56、会報発行への準備

57、母校への後援

58、橘花祭への参加

59、卒業式への参列

60、入学式への参列

61、卒業式（3／2）への参列

62、PTA総会への出席

63、代議員会の開催

64、事務局会議の開催

65、代議員会及び懇親会の開催

66、会報発行への準備

67、母校への後援

68、橘花祭への参加

69、卒業式への参列

70、入学式への参列

71、卒業式（3／2）への参列

72、PTA総会への出席

73、代議員会の開催

74、事務局会議の開催

75、代議員会及び懇親会の開催

76、会報発行への準備

77、母校への後援

78、橘花祭への参加

79、卒業式への参列

80、入学式への参列

81、卒業式（3／2）への参列

82、PTA総会への出席

83、代議員会の開催

84、事務局会議の開催

85、代議員会及び懇親会の開催

86、会報発行への準備

87、母校への後援

88、橘花祭への参加

89、卒業式への参列

90、入学式への参列

91、卒業式（3／2）への参列

92、PTA総会への出席

93、代議員会の開催

94、事務局会議の開催

95、代議員会及び懇親会の開催

96、会報発行への準備

97、母校への後援

98、橘花祭への参加

99、卒業式への参列

100、入学式への参列

101、卒業式（3／2）への参列

102、PTA総会への出席

103、代議員会の開催

104、事務局会議の開催

105、代議員会及び懇親会の開催

106、会報発行への準備

107、母校への後援

108、橘花祭への参加

109、卒業式への参列

110、入学式への参列

111、卒業式（3／2）への参列

112、PTA総会への出席

113、代議員会の開催

114、事務局会議の開催

115、代議員会及び懇親会の開催

116、会報発行への準備

117、母校への後援

118、橘花祭への参加

119、卒業式への参列

120、入学式への参列

121、卒業式（3／2）への参列

122、PTA総会への出席

123、代議員会の開催

124、事務局会議の開催

125、代議員会及び懇親会の開催

126、会報発行への準備

127、母校への後援

128、橘花祭への参加

129、卒業式への参列

130、入学式への参列

131、卒業式（3／2）への参列

132、PTA総会への出席

133、代議員会の開催

134、事務局会議の開催

135、代議員会及び懇親会の開催

136、会報発行への準備

137、母校への後援

138、橘花祭への参加

139、卒業式への参列

140、入学式への参列

141、卒業式（3／2）への参列

142、PTA総会への出席

143、代議員会の開催

144、事務局会議の開催

145、代議員会及び懇親会の開催

146、会報発行への準備

147、母校への後援

148、橘花祭への参加

149、卒業式への参列

150、入学式への参列

151、卒業式（3／2）への参列

152、PTA総会への出席

153、代議員会の開催

154、事務局会議の開催

155、代議員会及び懇親会の開催

156、会報発行への準備

157、母校への後援

158、橘花祭への参加

159、卒業式への参列

160、入学式への参列

161、卒業式（3／2）への参列

162、PTA総会への出席

163、代議員会の開催

164、事務局会議の開催

165、代議員会及び懇親会の開催

166、会報発行への準備

167、母校への後援

168、橘花祭への参加

169、卒業式への参列

170、入学式への参列

171、卒業式（3／2）への参列

172、PTA総会への出席

173、代議員会の開催

174、事務局会議の開催

175、代議員会及び懇親会の開催

176、会報発行への準備

177、母校への後援

178、橘花祭への参加

179、卒業式への参列

180、入学式への参列

181、卒業式（3／2）への参列

182、PTA総会への出席

183、代議員会の開催

184、事務局会議の開催

185、代議員会及び懇親会の開催

186、会報発行への準備

187、母校への後援

188、橘花祭への参加

189、卒業式への参列

190、入学式への参列

191、卒業式（3／2）への参列

192、PTA総会への出席

193、代議員会の開催

194、事務局会議の開催

195、代議員会及び懇親会の開催

196、会報発行への準備

197、母校への後援

198、橘花祭への参加

199、卒業式への参列

200、入学式への参列

201、卒業式（3／2）への参列

202、PTA総会への出席

203、代議員会の開催

204、事務局会議の開催

205、代議員会及び懇親会の開催

206、会報発行への準備

贊助金
年会費

贊助金（敬称略）○卒期

五十五万円・川島清司(1)・
万円・故青木豊氏(10)・遺

族 千円・前原茂夫⑨
二千円・曲田晴美⑪

年会費納入者（敬称略）

金原・金原・金原・
旧中1期・三森和男、犬

塙光一 東出伸夫 大橋
定康 関口昌男、石田喬、

栗谷信一郎、笠原果、佐藤預一、野崎千代治、荻原

島敬藏、今野健二郎、芹
田口雄、田中?明、天蠍

田和郎 旧中期・矢島
久次、滝沢勇、飯野基之、

熊澤英雄、手塚七五郎、
伊藤隆之、

井郭喜、小林亮、小川幸
兵、馬易念、竹本幹彦、

江馬場和竹本草彥
矢沢晃、柳澤初男、山田

惠一、旧中4期・池田仙
吉安斎重夫、荻野俊男、

桜井義英、併中一期・勢
多章達、石井信男、采韻

之宏、併中2期・百木清
多量造石井作異深浅

治
驚見成博
高校1期

村仁、高校2期・赤池憲
雄元木輝夫、白井賛久、

飯田喜一郎、秋元初雄、
岩澤政次、平岡宏一郎、

沼田守弘、岩田隆範、安
田仁、斎藤晴光、**高校3**
期・平川清造 加藤一男、
村上博俊、原 明、松田
陽介、三宅義雄、市川隆
一、田辺久男、松原重郎、
古尾谷崇、川島清司、小
林昌雄、江添健一、熊谷
敬央、平賀正信、吉田晴
彦、小畠昌行、**高校4期・**
菊川喬、飯島林藏、栗栖
伸、矢野健治、西川洋志
夫、松世公平、渥美幸治
朗、青木弘之、宇部野輝
郎、梶川健司、猪又光夫、
石井義孝、関口康夫、菅
原啓一郎、西村豊治、岡
田幸雄、高橋敏、坂本守
司、鈴木清弘、**鳥居有二**
中島明、原弘孜、高校5
期・正木秀夫、鶴岡睦、
渋谷睦夫、中村昭、内田
信光、深澤壽徳、伊藤敏
和、永原英子、山田信夫、
岡部成実、内藤保、黒川
陽子、今野シズ子、桑原
康雄、吉澤明夫、**高校6**
正、三浦政治、安倉礼子、
成川昭、根本政夫、藤井
房利、下田充一、斎藤和
子、高橋齊、内藤 政幸、
原修次、小口和夫、秋山
潔、柴田勇、田代尚潔、
国兼隆晃、佐野薰、各務

也、望月正夫、飯島ギン、松原益弘、大森繁子、西村マリ子、近藤誠、木村きみよ、河村澄江、門脇武博、新井紀元、根本光子、清水敏子、鈴木正則、関山泰司、三木国功、石塚勝利、大西啓介、阿部富裕、杉山暁、溝江光運、高校12期・石川正紀、遠藤繁広、濱田静子、井上ミ子、庄司昭、高橋13期・佐々木淑恵、原功、二見ユキ子、石井勇、小島英樹、早川勉、田代正美、福島慎介、藤野由美子、森谷利道、城所和子、鈴木幹雄、岡部信之、山崎行男、尾関繁子、山崎克彦、西海和代、中村徹夫、北谷瑞恵、笠井英彦、市川幸一、竹村千恵子、高士郎、濱岸マユミ、木山校14期・加藤五朗、矢作美奈子、石井正大、新木全吾、菅原照也、秋葉洋子、森乃武、青木薰、高校15期・妙摩昌司、水谷泰雄、宇井誠、小沼輝宏、清水八重子、三原弘義、雪石靖夫、佐保田宣子、津留崎公夫、高橋陽子、仁上勝之、中井勲、

彦	隆史、池田要子、本田和
猪瀬勢津子、斎藤芳	雄
千代田鶴子、宮尾泰	子、甲斐ひかる、鈴木行
志村晴子、鹿島仁、井上	男、武内和子、神野定、
勇	高橋17期・岩瀬清、安孝
池田建支郎、澤野千	鎮、墨摩光行、川本邦子、
恵子、高橋千枝、清水治	
男、和泉民雄、矢島義平、	
市川伸一、金子美知子、	
森和子、中村資敬、向山	
孝、佐藤弘子、佐藤真由	
美	高橋18期・池田晃、
吉田茂、田中けい子、林	
三、飯島恒子、福地一、	
森川雅人、市川典男、佐	
久間邦子、武政一郎、横	
山登、野田たけ子、役和	
佳、鏑木茂哉、乙訓博道、	
黒川伸雄、池上裕光、牧	
野重夫、中谷陽子、高校	
19期・小笠原光啓、今井	
芳枝、石井光代、山岸静	
子、吉川由里子、岡田博	
道、西山竜児、庄瀬誠一、	
星野芳廣、坂本洋子、石	
井敬子、若林久美子、竹	
邦子、井深ひとみ、椎名	
義則、木原利道、赤間正	
吉、高橋正雄、鈴木精子、	
石山繁子、飯田眞司、伊	

藤八千代、能重彰、荒井繁、**高校21期**・齊藤力、松沼晴一、小林いく子、岡田ハツエ、後藤日吉、原慶応、金田美幸、竹村方行、武川ひろみ、小暮啓一、小暮まり子、小嶋隆、**高校22期**・内田英朗、吉田伸一、土田世津子、柳沢康子、森光君枝、小林透、松井光男、伊藤信之、半田正邦、高坂一夫、安斎誠、嶋田昭子、森茂、高橋美代子、寺西英夫、**高校23期**・若林恭子、大学和子、野村京子、松本安弘、坂塙隆、橋洋司、**高校24期**・日向栄、楨山泰子、小泉光由、河原田典子、**高校25期**・大谷かをる、川辺伊都子、池田信弘、中山安子、中町節子、笛原玲子、沼田薰、いづみ、鈴木敦子、野口泰一、吉田一雄、荒木勉、**高校26期**・吉田充一、芳賀けい子、青柳陽子、地引信太郎、宍戸彰、岸かほる、御手洗修、**高校27期**・天利智、菊島清志、野原郁子、豊島雅子、漆野尚子、石田貞代、渡辺照彦、小林利文、伊藤良、島村静子、脇糸穂子、岩崎智子、**高校28期**・小倉佳美、西

條恵子、大森勝也、近岡文子、大野泰孝、青木周一、田中務、松村剛、里勤、滝嶋順子、大貫孝、佐藤弘子、崎川弥生、高校30期・高梨直子、葛西恵子、村上房江、天野秀一、小俣由美、渡辺文司、中村敦子、田原正範、石井滋、内沼良和、青島伊津子、荒井久雄、河野忠正、高校31期・宮下聰、笛崎裕子、加藤正明、野口竹志、古屋いづみ、池田静喜、鶴間浩美、中野貴之、池上隆二、高校32期・久米真美子、山室真美、成田俊之、松山小百合、今岡寛始、鷲友子、蛭田雄一、石井孝治、高校33期・長沢美恵子、高久幸子、石渡恵美、高校34期・渡辺正子、田中妙子、大塚かをる、黒岩若代、山本直人、斎藤和久、小池久美子、高校35期・橋上弘、中村恵、相原裕子、高校36期・堅木みつ子、高校37期・星野洋司、岡見千鶴、高星野洋司、岡見千鶴、高校38期・吉田昌子、高校39期・吉田昌子、高校

高校44期・安藤徹、田辺邦晃	40期・安藤徹、田辺邦晃
高校47期・森映子、高校	53期・鹿島聰
坂真奈美、津布久綾子、	山口孝子、植木節子、有
牛頭弥生、尾藤美佐子、	坂真奈美、津布久綾子、
竹田けい子	牛頭弥生、尾藤美佐子、
平成16年度 17年度分	山口孝子、植木節子、有
旧中1期・今野健二郎、	坂真奈美、津布久綾子、
高校11期・長谷川幸夫、	牛頭弥生、尾藤美佐子、
高校12期・片山茂、高校	竹田けい子
17期・和泉民雄	平成16年度 17年度分
(順不同)	旧中1期・今野健二郎、
	高校11期・長谷川幸夫、
	高校12期・片山茂、高校
	17期・和泉民雄
	(順不同)
※年会費は1年千五百円	※三年以上分納入者が複
2年分で三千円をまとめ	数おられます。
てお預かりしております。	方は割愛しました。
同封の振込用紙に、卒期	※一部卒期の明記がなく
または卒業年を記入の	別途記載しました。ご了
上、郵便局よりお振込み	承ください。
くださいますようお願ひ	
申し上げます。	

